



# アルゼンチン通信



第6号 2025年01月31日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生 鈴木功二

アルゼンチンに来てから5カ月以上が経過、1月は夏真っ盛り、特に私が住んでいるサンティアゴ デル エステロは、平原の真ん中に位置していて周囲に山がない為か、アルゼンチンの中でも特に気温が高い地域です。これは、アルゼンチン北部の気温レーダー図で、ピンク色のエリアは40℃以上を示しています。日本の歴代最高気温が浜松や熊谷の41.1℃なので、気温は日本の夏とほぼ同等ですが、蒸し暑さはなく、事務所内は冷房が効きすぎて寒い時もあります。

日本でも真夏の雷雨があるように、こちらでも雷雨が時々あり、日中の最高気温が30℃以下に下がって過ごしやすくなります。しかし、施工の品質が良くない為か、建物内で雨漏りがしたり、道路に水が溜まったりします。

セミの鳴き声は収まりましたが、コオロギが、街中のあちこちにいます。自宅の台所にもいて、害虫ではないので放っておいたのですが、足の甲を噛まれて痛かった。かわいそうでしたが、ベランダに出て行ってもらいました。初めてコオロギに噛まれました。



12月の卒業シーズンが終わり、今は3カ月近くの夏休みに入っている学校、今回は、アルゼンチンの教育制度について、紹介したいと思います。

保育園(イニシャル教育)が3年、小学校(プリマリア教育)の7年、中学高校(セクンダリア教育)の5年があります。大学等の高等教育(スペリオール教育)は任意であり、義務教育は3・7・5制の5歳から17歳の15年間です。大学は、4~7年間です。

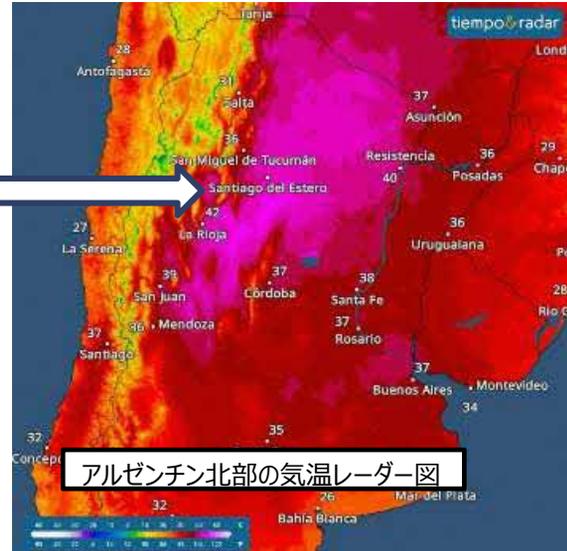
学校年度は3月に始まり12月に終了する2学期制です。1学期は3月~7月初めまで、2学期は8月~12月です。1月、2月は3か月近くの夏休み、7月は一か月弱の冬休みです。

小学校、中学高校の科目には、国語(スペイン語)、数学、社会科学、自然科学、歴史、地理、音楽、美術、体育、外国語として英語等があります。

中学高校の最後の3年間で、生徒たちは、より高いレベルで学びたいことや将来働きたいことに応じて、進路や 専門分野を選択することができます。進路や専門分野は学校によって異なりますが、一般的には経済学、自然科学、生物学、保健学、社会科学のいずれかを選択します。

学校は、日本と同じく大きく公立と私立に分けることができます。

公立小学校は、午前コースと午後コースに分けられた半日制で、午前コースは8時~12時、午後コースは13時~17時の4時間です。日本のような給食(食事が配膳されて皆で食べる)はなく、売店の日替わりメニューを買ったり、学校の外で買ったり、自宅で食べたり、まちまちです。



公立の学費は無料で、どの社会階層の子どもでも入学できます。生徒は、教育の平等や社会正義の象徴である白い制服(guardapolvo、グアルダポルボ)を着用しています。しかし、公立は、教員のストライキや研修不足、設備が十分ではなかったりするので、学費が高くても、私立を選ぶ親もいます。

日本では、一部の自治体や親の条件等によって高校無償化が導入されていますが、こちらでは公立であれば、大学も含めて授業料は無料という考え方が根付いていて、日本の公立大学では授業料が必要と言うと、怪訝な顔をされます。教育は基本的な権利で、すべての人が教育を受けられるのは当然という考えの為と思われるのですが、無料だとその価値が軽視されがちな気がします。

日本では、休み前に宿題がたっぷり出されて、休みが終わる直前に急いで取り組むパターンが多いと思いますが、こちらでは、宿題がっさい出ません。宿題がないと日常の規律を保つことができず、不規則な生活を送りがちになる半面、自主性や個性が重んじられ、自分が興味を持っている科目や趣味にとことん集中できるので、その道のプロや天才を生み出すことができやすくなります。今は、言われたことだけをやる人よりも、自立的に何か新たなことを創造する人が求められているので、宿題なしの方がよいのかもしれない。



近所の私立学校



国立大学前の横断幕：「適切な給与なしに、質の高い公立大学はない。」：政府の予算削減に反対



科学者みたいな公立学校の制服

(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二